

はうっすらと泥が堆積していたが、胞子から発芽したと考えられるデンジソウの芽生えも数カ所で見ることができた。

その後も観察を継続しているが、すさまじい勢いで群落は拡大した(図3)。8月22日と9月26日の生育状況を図示したものが図4、5である。完全なコンクリート3面張りの池であるが、わずかな泥があれば群落を形成し、群落が大きくなることで土砂が堆積し、を繰り返す等比級数的に増殖した。除草剤が普及する以前は、代表的な水田雑草であった(農家を苦しめていた)ことが納得できる。調整池はデンジソウが土壌を固めたおかげで、たくさんの水生植物、湿生植物も繁茂している。公園の管理責任者のところに、「草が茂っていてみっともない」と地域住民から苦情が寄せられているとのことで、管理の方法について相談を受けた。デンジソウは完全復活といえる状態であったので、「背の高い草は草刈り機で刈り取っていいですよ」とアドバイスしたが、その後も手つかずである。大きく騒がれた後であるため、怖くて手が出せないでいるらしい。今年、調整池で確認された植物は次のとおりである(8月22日、9月26日、11月13日、常時冠水している場所のみ)。

アキメヒシバ、アゼガヤ、アゼガヤツリ、アゼナ、アメリカアゼナ、アメリカセンダングサ、イヌガラシ、イヌビエ(ケイヌビエ型が多い)、イ

ネ、イボクサ、エビモ、オオイヌタデ、オランダガラシ、カワヂシャ、ギシギシ、キシユウズメノヒエ、キツネノボタン、コゴメガヤツリ、コナギ、スカシタゴボウ、ジュズダマ、セリ、タカサブドウ、タマガヤツリ、チョウジタデ、ツユクサ、デンジソウ、ヒデリコ、ヒメミソハギ、ホソバツルノゲイトウ、ホソバヒメミソハギ、ボントクタデ、ミズガヤツリ、ミヅソバ、ヤノネグサ、ヨメナ、シヤジクモの一種、イトモまたはホソバミズヒキモ

除草剤の影響さえなければ、来年もデンジソウの群落は拡大していくと考えられるが、他の水生植物、湿生植物との競争も激しくなると予想され、場合によっては他の植物の除草やデンジソウの間引きが必要になってくるかも知れない。

以上がその後のヒシモドキとデンジソウの状況である。デンジソウは完全復活であるが、ヒシモドキはまだ予断を許さない。今後も担当者と打ち合わせを続ける必要がある。

引用文献

- 上赤博文, 1999. 佐賀県の「ヒシモドキ」と「デンジソウ」, 公共工事で消滅の危機. 水草研究会報 67: 24-30.
上赤博文・松本幸子, 2000. 佐賀平野東部で確認されたヒシモドキの新産地. 佐賀自然史研究 6 (印刷中).

○関西自然保護機構会報 21巻2号『ヨシ原に関する国際ワークショップおよび講演会特別号』(関西自然保護機構、1999年12月、280p、頒価4000円(送料含む))

1999年6月に行われた標記のワークショップの内容を集録した報告書である。海外からの招待講演以外は40pのリストに掲載してあるので、参考

にさせていただきたい。

入手方法: 下記に申し込めば、送金用の振替用紙とともに送られる。

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学理学部植物生態学研究室気付

関西自然保護機構

TEL & FAX 06-6605-3167